

北日本新聞

発行所
北日本新聞社
富山市安住町2番14号
郵便番号 930-0094
電話 (076) 445-3300(受付案内)
©北日本新聞社 2002

紙面批評

十一月に入っても田中耕一さんの明るい話題とともにお祝いの報道が続いた。一日は母校の東北大から名誉博士号の授与、二日は北日本新聞文化賞等贈呈式とともに県が「名誉県民」の制度を創設し、その称号を贈る記事が出た。四日は皇居での文化勲章親授式、六日に文化功労者顕彰式と続いた。

とやま | Tベンチャー協議会長 松原 吉隆

ならではの親しみを込めた記事で、読者にとってもほほえましく、心地良き、好感度100割。この傾向が一カ月後の世界最高の栄誉とされるノー

ベル賞授賞式まで続くと思われ、今後の報道ぶりが楽しみである。

一方、六日朝刊の記者ノート「生活を変えた幸運と悲劇」は、田中さんと同年齢で北朝鮮に拉致された曾我ひとみさんを対比させキラリと光る。

「田中さん人気」に好感

同日の社説「永住支援に万全期そう」も重くタイムリーだった。

六日朝刊の「霞が関人国記」は拉致事件を取り上げ、断固たる態度貫くべきとの記事を最後に連載二十三回をもって終了した。役人はのりを超え

北朝鮮拉致関連で五日夕刊、横田めぐみさんの母である横田早紀江さんのインタビュー「わたしの悲しみは怒りが込められている」は胸を打つ。ご夫婦の今日までの行動から立派としか言いようがなく、日本の母親の姿がここにありを感じさせ

た。ただ連載を通して、役人としての国家観だけでなく、郷土や地域への思いも引き出してもらえたら、もっと親しみが持てたと思う。

多様な視点の「悠閑春秋」

同日社会面では「県内ドナーから腎移植」の感動記事が大きなスペースで扱われ、社会的インパクトを与えた。

米国対イラクの報道は、全国紙を含め各紙とも米国の言い分一辺倒に偏ったようにみえるが、十一日夕刊の「悠閑春秋」は、イラク関連記事として報道のあるべき姿として好感を持たれた。各ジャンルの多様な視点での「悠閑春秋」を今後も楽しみにしていきたい。